

ガス・石油ふろがまの事故

事故の概要

【事例①】ガスふろがまの火が付かなかったため、点火を繰り返したら異常着火した。

【事例②】浴室で死亡している人が発見された。

【事例③】石油ふろがまから出火し、循環パイプなどが焼けた。



事故の原因

【事例①】排水口が詰まって燃烧部が水につかったため、点火しにくくなっていました。点火操作の繰り返しで、周辺にたまったガスに異常着火したものです。

【事例②】建物の塗装工事中で、ガスふろがまの給気口等がビニで覆われていたため、不完全燃烧が生じて一酸化炭素中毒になったものです。



【事例③】空だき防止装置のない古いふろがまで浴槽の水を確認せずにスイッチを入れたため、空だき状態になって火災に至ったものです。



事故防止のために

◆数回点火操作を行って点火できなかった場合は、操作を繰り返さないでください。漏れたガスに引火しますので、換気を行い、時間を空けてから再点火してください。

◆浴室の排水口はこまめに清掃してください。排水口が詰まって燃烧部が水につかると異常着火や腐食の原因になります。

◆給排気口等が塞がれていないかを確認しましょう。外壁工事用の養生シートで覆われているときは、使用しないでください。

◆入浴やシャワー、追いだきの際は、湯温を手で確認してください。突然、高温の湯が出る場合があります。

◆空だきにならないよう浴槽の栓は確実に閉めてください。特に空だき防止装置のない古いふろがまは注意が必要です。

